

【入間下藤沢地区】

社会資本整備総合交付金（旧まちづくり交付金）事業 事後評価結果の公表について

入間下藤沢地区では平成 18 年度より、都市再生整備計画に基づく社会資本整備総合交付金を活用し、武蔵藤沢駅西口交通広場や藤沢中央公園の整備、防犯灯や街路灯の設置などの事業を進めてきました。以下に入間下藤沢地区の都市再生整備計画事業について整理しました。

都市再生整備計画事業【入間下藤沢地区】の概要

1 計画段階に設定したまちづくりの目標

大目標：

「香り豊かな緑の文化都市」を目標とし、「住んでみたい・住んでよかった」と思われる、安全、安心な自然と調和したまちづくりを進める。

目標1: 商業基盤の整備により、都市としての活力を増進させるとともに、文化レクリエーション施設の充実により市民の日常生活の活性化を促進し、活気と豊かさあふれる街を創造します。

目標2: 広域的な役割を担う圏央道、国道及び国道バイパスと幹線道路の効果的なネットワークの形成により、鉄道駅への移動時間短縮、公共交通機関の充実により、利便性のよいまちを創造します。

目標3: 大震災や風水害などに備えて、都市の防災機能の向上を図り、市民の生命の安全を確保することを第一とした安全なまちを創造します。

目標4: 高齢者や障害者を始めとする全ての住民が、快適に生活・活動できるよう、また、心豊かで快適なまちを創造するためバリアフリー化に努めます。

目標5: 本市を特徴づける豊かな緑等の資源が、あらゆる都市施設と調和し、市民や市を訪れる人々がゆとりや安らぎを感じることができるすぐれた景観を有するまちを創造します。

2 事業内容

□ 都市再生整備計画による事業

- 狭山ヶ丘3号踏切の拡幅
- 近隣公園(藤沢中央公園)の整備
- 久保稻荷線及び藤沢中央通り線の街路植栽
- 藤沢中央通り線の街路灯設置
- 武蔵藤沢駅西口交通広場の整備
- 近隣公園(藤沢中央公園)及び(仮称)4号公園への地下調整池の設置
- 武蔵藤沢駅の駅舎橋上化
- 武蔵藤沢駅東側での歩行者専用道路の整備
- 防犯灯の設置
- 近隣公園(藤沢中央公園)への防火水槽の設置
- 電線類の地中化
- 武蔵藤沢駅の自由通路の設置

駅西口交通広場の全景



橋上化された武蔵藤沢駅



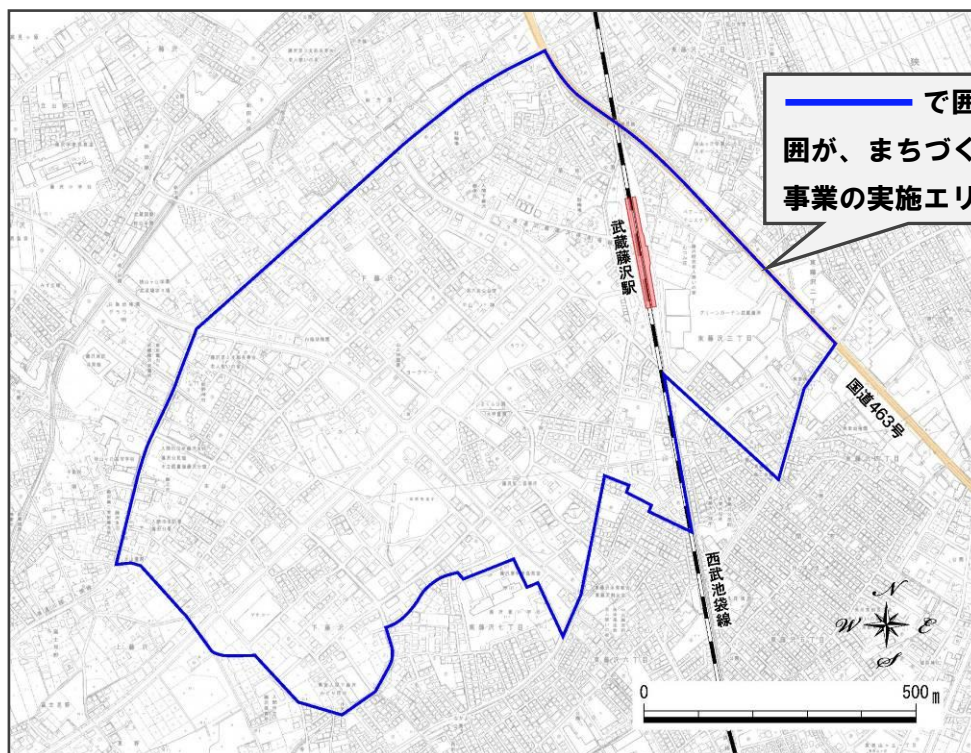
藤沢中央公園



植樹が施された藤沢中央通り線



駅東側の自転車歩行者専用道路



3 計画段階で設定した数値目標と新たに加えた数値目標

指標1: 武蔵藤沢駅の利用者数（単位: 人/日）

武蔵藤沢駅の1日あたりの乗降客数を確認します。

指標2: 駅へのアクセス時間（単位: 分）

駅東側の交差点と駅までの距離から徒歩による移動時間を算出します。

指標3: 武蔵藤沢駅周辺のまちづくりに対する満足度（単位: %）

藤沢地区の住民に対しアンケートを実施し、まちづくりに対する満足度を把握します。

その他指標: 整備改善状況に対する評価（単位: %）

まちづくり研究会の委員や計画地区の自治会長等に対し、アンケートを実施し、都市再生整備計画事業についての評価を確認します。（事後評価の実施にあたり追加した指標です。）

事後評価において、計画段階に設定したまちづくりの目標との相関性を明確にするため、その他指標を以下に示す1～4に分けて整理しました。

□ 各指標の従前値と目標値

指 標		従 前 値		目 標 値	
			基準年度		目標年度
指標 1	武蔵藤沢駅の利用者数	21,561 人/日	H17	22,500 人/日	H22
指標 2	駅へのアクセス時間	5 分	H17	3 分	H22
指標 3	武蔵藤沢駅周辺のまちづくりに対する満足度	0%	H17	55%	H22
その他 1	整備改善状況に対する評価 （日常生活の活性化）	—	—	—	—
その他 2	整備改善状況に対する評価 （安全性・防犯性の向上）	—	—	—	—
その他 3	整備改善状況に対する評価 （街のバリアフリー化）	—	—	—	—
その他 4	整備改善状況に対する評価 （景観の向上）	—	—	—	—

都市再生整備計画事業【入間下藤沢地区】の事後評価結果

事後評価は、都市再生整備計画に従って行われた事業によってどのような成果がもたらされたかを客観的に分析し、今後のまちづくりを適切な方向に導くものです。

1 目標値の評価時の状況

指 標		従前値		目標値		評価値 (評価時点の 見込みの値)	目標 達成度
			基準 年度		基準 年度		
指標 1	武蔵藤沢駅の利用者数	21,561 人/日	H17	22,500 人/日	H22	23,300 人/日 [※]	○
指標 2	駅へのアクセス時間	5 分	H17	3 分	H22	3 分	○
指標 3	武蔵藤沢駅周辺のまちづくりに対する満足度	0%	H17	55%	H22	39.1% [※]	△
その他 1	整備改善状況に対する評価 (日常生活の活性化)	—	—	—	—	86.6% [※]	○
その他 2	整備改善状況に対する評価 (安全性・防犯性の向上)	—	—	—	—	82.8% [※]	○
その他 3	整備改善状況に対する評価 (街のバリアフリー化)	—	—	—	—	97.4% [※]	○
その他 4	整備改善状況に対する評価 (景観の向上)	—	—	—	—	97.4% [※]	○

(※)それぞれの評価値を計測する基準日は平成23年3月31日となるために、現時点では見込みの値として評価を行っています。そのため、平成23年度以降にフォローアップを行い確定値を計測し直します。

2 指標達成・未達成の要因

指標 1: 駅前交通広場や道路網が整い、自動車で駅に行きやすくなったことや、下藤沢地区の人口が増加したことにより目標値が達成されました。また、駅舎が新たに整備されたことやアウトレットモールがオープンしたことも影響していると考えられます。

指標 2: 歩行者専用道路の整備と駅東口の新設により駅への移動時間が短縮され、目標値が達成されました。

指標 3: 街路灯や防犯灯の設置、雨水調整池の設置、幹線道路や区画道路網の整備などにより一定の満足度が得られましたが、目標値には達しませんでした。

その他 1: 駅舎の橋上化及び自由通路の設置、駅東口での歩行者専用道路の整備による回遊性の向上により日常生活の活性化が図られましたが、一方で、駅前交通広場や近隣公園の整備による活性化への影響がそれほど大きくありませんでした。

その他 2: 安全性・防犯性の向上については一定の評価が得られ、中でも、街路灯や防犯灯の設置による夜間の安全性・防犯性の確保や防火水槽の設置による安全性の確保については、十分な評価が得られたものと考えられます。一方で、地下調整池の設置については、都市再生整備計画の計画区域外では依然として浸水などの水害が発生していることから、水害対策において高い評価が得られませんでした。

その他 3: 駅前交通広場や駅舎の橋上化にあたっては、高齢者等の移動に配慮した整備を行ったため、バリアフリーによる移動のしやすさについては高い評価が得られました。また、土地区画整理事業の実施に伴い、地区内の道路が新たに整備されたことも、高い評価の獲得につながったものと考えられます。

その他 4: 道路への街路樹の植樹や駅前交通広場を中心とした電線類の地中化により、街並みや景観の向上については高い評価が得られました。また、土地区画整理事業の実施に伴う近隣公園や街区公園などの公園の整備・配置や区画道路の整備も街並みや景観の向上に寄与しているものと考えられます。

3 今後のまちづくり方策

■住環境・景観の維持

植樹帯や公園、道路等の清掃等による景観や住環境・歩行環境の維持を図るため、現在行われているボランティア活動(植樹帯・公園の清掃)に対する積極的な支援のほか、新たなボランティアの参画体制の構築に努める。

■安全性・防犯性の維持

防犯灯の設置や生活道路網の構築等により防犯性・安全性に向上が見られた中、この環境を維持するため、自治会で行っている防犯パトロール等の活動に対し積極的な支援を行います。

■商業・業務基盤の活用と藤沢中央通り線の商業の活性化

商業・業務基盤の活用による商業の活性化に向け、大規模小売店舗や個店の商店主の連携を強化し、販売促進のイベント等を通じて、商店主間の組織化を図ります。

■地域コミュニティの活性化

新住民を中心とした自治会への加入促進とともに、公民館事業の積極的な活用等により、自治会活動の活性化を図ります。

■公共交通機関の充実

地区内の定住人口の増加や高齢者等の交通弱者への対応を図るため、公共交通機関の充実により公共交通利用環境の向上を図ります。